

## 第28章 地域編④：カルナタカ州

### 1. 地域概要

#### (1) 概要

##### ①インドにおける経済的地位

カルナタカ州は、インド南西部に位置し、面積は 19.2 万 km<sup>2</sup>（全国土の 5.8%に相当）、州人口は 2011 年時点で約 6,110 万人（全人口の 5.0%に相当）である。同州は西ガーツ山脈、東ガーツ山脈が合流する台地に位置しており、北はマハーラーシュトラ州、西はゴア州とアラビア海、南はケララ州、タミル・ナドゥ州、東はアンドラ・プラデシュ州、テランガナ州と接している。雨雲が山脈に遮られ降水量は少ない。

2019 年の下院総選挙では、カルナタカ州の 28 の選挙区（28 議席）で、BJP が 25 議席を獲得。BJP と合わせて、カルナタカ州では 3 大政党であるインド国民会議派（INC）とジャナタ・ダル（世俗主義。以降、「JD（S）」とする）はそれぞれ 1 議席ずつの結果となった（その他が 1 議席）。一方、下院総選挙に先立って 2018 年に実施された州議会選挙では、BJP は 104 議席を獲得して党別では最多、INC は 80 議席、JD（S）は 37 議席であった。2013 年の州議会選挙の際には INC が 122 議席、JD（S）が 40 議席、BJP が 40 議席であったが、2018 年選挙では BJP が躍進し、その分 INC が議席を減らした結果となった。しかし、いずれの党も過半数には至らず、INC と JD（S）が連立政権を樹立していた。2019 年の下院総選挙での BJP 勝利を受け、それまでの連立与党の一部議員が辞任したことで、BJP が過半数を占めることとなり政権を獲得した。2023 年 5 月の州議会選挙では、最大野党の INC が 2018 年時から 56 議席増の 136 議席を獲得して単独過半数に達し、躍進した。一方、与党の BJP は 38 議席減の 66 議席に後退し、大敗を喫した。2025 年 8 月時点、州首相は INC のシッダラマイヤ（Siddaramaiah）氏である。

カルナタカ州には航空宇宙、自動車・自動車部品、建設・土木、工作機械、バイオテクノロジーなどの諸産業が集積している。2022 年 4 月～2023 年 3 月の同州の名目 GDP は全国 GDP の 8.3% を占めている。「Demographia World Urban Areas 19th Annual: 202308」によると、州都ベンガルールの人口は 2,526 万人（2023 年）で、デリーに次ぐ規模である。1991 年の経済自由化以降、ベンガルールには IT 企業の集積が進んでいる。その一因として、Y2K（いわゆる「2000 年問題」）への対応のため、欧米企業が IT エンジニアリング業務をアウトソースしたことが挙げられる。

ベンガルールには地場の世界的ソフトウェア企業のインフォシス（Infosys）やウィプロ（Wipro）、欧米企業では Google、アマゾン、マイクロソフト、HP、IBM、SAP などが本社や地域本社を置くようになり、現在では「インドのシリコンバレー」と呼ばれるほど IT、先端製造業の R&D の中心地となっている。2018 年 11 月、楽天は、新たなテクノロジーを創出するための研究機関として「楽天技術研究所」をベンガルールに設立している。また、カルナタカ州政府は、インドの州政府として初めて、エコシステムを促進するためのプラットフォームである「Start up Cell」<sup>55</sup>を設立しており、シード資金なども提供している。ベンガルールは 2025 年スタートアップ・エコシステムランキングでインド 1 位、世界では 14 位と、前年の 21 位から大きく飛躍している（23 章参

<sup>55</sup> <https://www.missionstartupkarnataka.org/karnataka-startup-cell?karnataka-startup-cell>

照)。ベンガルールにおける 2014 年から 2023 年にかけての VC からの資金調達額は 66.3 億ドルにのぼる。

なお、2021 年 11 月には Karnataka Digital Economy Mission は州を超えてスタートアップを支援する「Beyond Bengaluru Startup Grid」を立ち上げ、市場や資金調達のアクセスなどの支援を行っている。

ベンガルールは海拔 920m に位置する高原都市で、温暖な気候で非常に過ごしやすことから、「インドの軽井沢」と呼ばれており、日本人駐在員からの人気も高い。

なお、2006 年にインド政府は植民地時代に付けられたバンガロール（Bangalore）という都市名を、現地のカンナダ語で「豆の街」を意味するベンガルール（Bengaluru）に改めた。その由来は、かつて同地の王が狩りの途中で道に迷って空腹に窮していたところ、女性が煮豆を供したという故事とされる<sup>56</sup>。

図表 28-1 インドにおけるカルナタカ州の位置



（出所）各種ウェブサイト情報を参考に作成

## ②工業団地・日系企業進出動向

ベンガルール周辺で日本企業が進出している工業団地としては、ビダディ（Bidadi、主な進出企業：トヨタ、豊田通商）、エレクトロニクス・シティ（Electronics City、同：横河電機、ファナッ

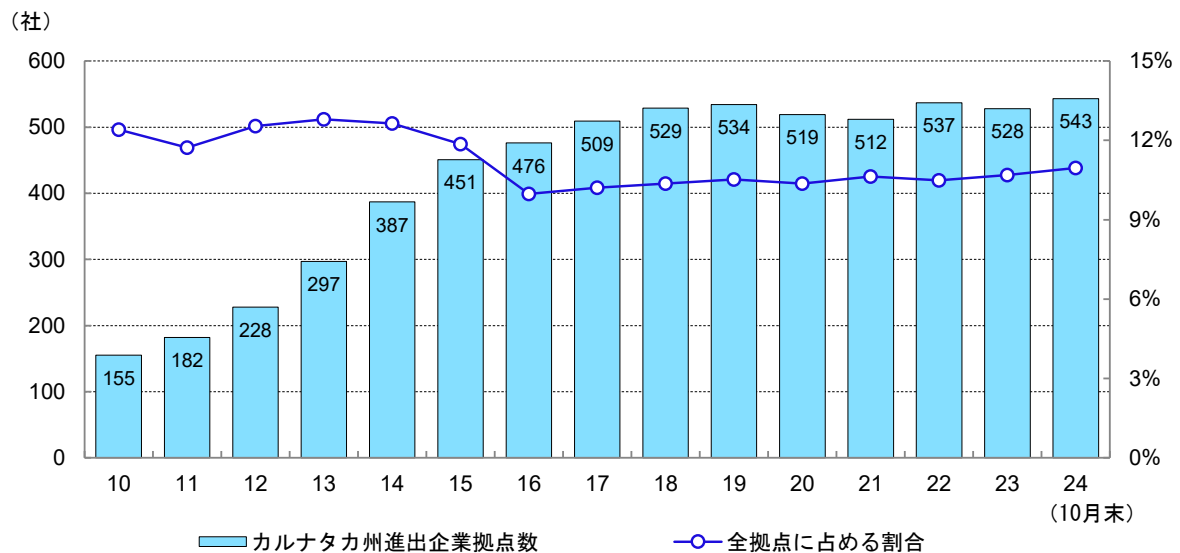
<sup>56</sup> 諸説あり。

ク、安川電機)、ナラサプラ (Narasapura、同：ホンダ) などがある。

また、日本工業団地<sup>57</sup>として、ベンガルールから 86km 北西部にトゥムクウル (Tumkur) 地区の開発が進められている。

在インド日本国大使館によれば、2022 年 10 月時点でカルナタカ州に進出している日系企業の拠点数は 228 社、537 拠点である (図表 28-2)。拠点数は微増傾向にあり、の背景には、IT 関連や製造業での新規拠点設立目立つ一方、企業数は若干減少しており、拠点統廃合や事業再編によるものと考えられている。また、トヨタ・ルノー日産・ホンダなど完成車メーカーの進出に伴って、Tier1、Tier2 の部品サプライヤーも進出していることがある。

図表 28-2 カルナタカ州進出日系企業の拠点数推移



(出所) 在インド日本国大使館、JETRO「インド進出日系企業リスト (2025 年 6 月)」より作成

州政府は投資促進政策として、2020 年から 2025 年までの 5 ヶ年産業政策 (Karnataka Industrial Policy 2020-25) を推進している。Tier-2、Tier-3 都市を開発することや、5 億ルピー相当の投資を誘致し、200 万人の雇用を創出することを目指している。また、最近の労働法改正などとも整合をとっている。

<sup>57</sup> 2015 年 4 月の「日印投資促進とインド太平洋経済統合に向けたアクションアジェンダ」に盛り込まれた、日本からインドへの投資促進を目的に設定される工業団地。現在 12 か所が候補として設定されている。

## (2) 進出日系企業から見た事業・生活環境やコスト

### ①インフラ・物流

#### 【道路・鉄道】

ベンガルール市内の渋滞はインドの大都市でも特に深刻で、2020年にオランダ企業が実施した世界の都市の渋滞の程度のランキングで世界6位となったが、同社の2024年のランキングでは3位に上昇している。

特に、通勤ラッシュの朝9～10時と夕方6～7時は渋滞がひどくなる傾向があり、最も渋滞がひどくなる日時は、金曜日の夜7～8時とのことである。

渋滞緩和を企図したベンガルール・メトロが日本の円借款（総額655億円）で建設されており、2022年4月時点、パープルライン（東西線、17駅18.1km区間）とグリーンライン（南北線、24駅24.2km）が運行している。ベンガルール・メトロ建設事業フェーズ2では、都心部の外郭環状道路沿いや環状道路から近郊の空港までをつなぐ空港道路沿いを含む3路線（約80km）を建設する予定となっており、2021年3月に円借款契約が調印されている（約520億円）。2025年8月時点では、このフェーズ2は2027年までずれ込む見通しとなっている。

#### 【水】

大量の水を用いる企業の場合は、供給業者からタンクで定期的に購入することがあるとのことである。なお、タミル・ナドゥ州とは州境を流れる川の水利権を巡る農民同士の対立が常態化している。2016年9月、最高裁が上流側のカルナタカ州に対し、下流側のタミル・ナドゥ州へ水を供給するよう命じたことに対してカルナタカ州住民が反発し、タミル・ナドゥ州ナンバーの車や商店が放火され、警官隊とデモ隊の衝突で死者2名が出る事態となった。

この事件でベンガルール市の一部を含め州内に外出禁止令が出され、日本の完成車メーカー工場も操業を一時停止するなど、治安・経済に大きな影響が生じた。

#### 【空港・港湾】

ケンペゴウダ国際空港がベンガルール市から北に約37km、ベンガルールとハイデラバードを結ぶ国道7号線沿線上に位置している。日本航空（JAL）が成田からベンガルールへの直行便を2020年に開設予定であったがCOVID-19の影響により延期となり、その後2022年から定期便の運航が開始されている。このほか、ベンガルールからは、シンガポール、香港、中東などやインド国内各都市に就航している。

カルナタカ州自体は西側がアラビア海に面し、マンガロール港などの官営港湾があるが、ベンガルールは州東側の内陸部にあり、西海岸の港との間では道路が整備されていない丘陵地帯を通る必要があるため、日本企業はタミル・ナドゥ州のチェンナイ港、カマラジャール港から原材料の輸入などを行うことが多いようである。

### 【電力】

Central Electricity Authority 「Annual Report 2023-24」によると、カルナタカ州では、2023 年度は 94,088 MU の需要に対し供給が 93,934 MU で、若干の需給ギャップがあったが、ピーク時需給については、17,212 MW の需要に対しギャップが生じていない。

### 【不動産】

企業集積に伴って土地・不動産価格は高騰しており、工業団地の土地価格・事務所賃料はデリーやムンバイと同程度となっている。

ベンガルール市内のチャンセリー・ホテル (Chancery Hotel) では、Toyota Enterprise India Pvt. Ltd. がビジネスコンビニ「NEXTEP」を開設し、ビジネスサポートや生活サポートなどを行っている。同社の親会社であるトヨタエンタプライズは、トヨタ自動車の完全子会社で、ビルメンテナンス、ホテル (指定管理)・保養所、レストラン・社員食堂などの事業を営んでいる。

## ②労働事情

### 【人材】

カルナタカ州の人は、比較的性格が穏やかで勤勉な人が多く、日本企業の企業文化と親和性が高いと言われている。特に IT 産業の集積したベンガルールではカースト意識も希薄で、労使関係のリスクも小さいとされる。人的資源開発省の「All India Survey on Higher Education 2021-2022」によると、カルナタカ州には 75 の総合大学、4,430 の単科大学があり、州別の大学数ではそれぞれ 4 位、3 位であった。高等教育における男子学生と女子学生の比率は 49%、51%と女子がやや高くなっている。ベンガルールには理数系・工学系の名門校が集中し、IT・スタートアップ企業と大学の連携が活発であり、STEM 教育においても女子学生の進出が進み、英語による高等教育が一般的であるなどの特徴がある。

トヨタ自動車の現地法人「トヨタ・キルロスカ・モーター」は、経済的理由から高校への進学が難しい中学卒業者を対象にモノづくりの技術を教育する「トヨタ工業技術学校 (TTTI)」を 2007 年に同社敷地内に設立した。日本の経済産業省は、インドの技能開発・企業家省との間で 2016 年 11 月に交わした「ものづくり技能移転推進プログラムに関する協力覚書 (MOC)」に基づき、2017 年 6 月に同校を「日本式ものづくり学校 (Japan-India Institute for Manufacturing : JIM)」として認定している。2025 年 5 月、TTTI は 2025~28 年期の新入生募集を開始し、経済的に困難な家庭の中学卒業者を対象として完全無償・全寮制の技能教育を提供するとしている。2023 年から定員を 600 名から 1,200 名に倍増し、女子学生の枠を 50%に拡大、インフラも強化され、女子寮や最新設備が整備されている。

また、2025 年 2 月の「Invest Karnataka 2025」では、日本企業 15 社が総額約 7,500 億ルピーの投資を表明しており、トヨタ・キルロスカやニデックほかの企業が参画している。

### 【賃金】

インド日本商工会と JETRO の「賃金実態調査概要」によると、カルナタカ州のスタッフとワーカーの 2023 年の実績は、スタッフが 8.9%、ワーカーが 10.8%であった。インド全体ではスタッフが 10.4%、ワーカーが 10.3%で、カルナタカ州では、スタッフの昇給率は全国を下回った。

## ③生活環境

### 【気候】

高原地域にあるため、南部でも気温や湿度が極端に高くはならず、比較的安定した穏やかな気候である。モンスーンの時期（9 月中旬頃）に雨が多く、洪水が起きる場合もあるが、チェンナイなどと比べると大規模災害は少ない。



ベンガルールの高所からの街並み

### 【教育】

日本人学校はないが、Canadian International School や Stonehill International School などのインターナショナルスクールがベンガルールに 10 校程度ある。また、日本人補習校（サタデースクール）があり、ベンガルール日本人会と PTA によって運営されている。2025 年 4 月時点の生徒数は 99 名である。

### 【医療】

日本人駐在員はバンコクやシンガポールの病院のほか、日本帰国時に病院にかかることも多いが、医療サービスは充実している。駐在員のリスクマネジメントサービスの利用も可能である。インドの病院の場合、診療、処置、薬の処方など窓口が細分化されているため、一連の医療サービスを受けるのに時間がかかる点に注意が必要である。

外務省のウェブサイト「世界の医療事情 インド」では、ベンガルールの医療機関として、Sakra World Hospital や Manipal Hospital Yeswanthpur, Yeshwanthpur Cloudnine Hospital Malleshwaram などの病院が紹介されている。

「世界の医療事情 インド」： <https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/india.html>



ベンガルールの病院に関する情報は、在インド日本国大使館やベンガルール日本人会のウェブサイト<sup>58</sup>でも紹介されている。

### 【治安】

ベンガルール市内の治安は良く、日本人が巻き込まれる凶悪犯罪は非常に少ない。ただし、中間層以上や若者を中心に飲酒に比較的寛容な風潮であるため、金曜や週末の深夜の外出は避けた方が良いとされている。

### 【住居】

ベンガルール市内で外国人駐在員に人気のエリアは、中心部の MG ロード (MG Road)、エンバシー・ハビタット (Embassy Habitat)、フェアモント (Fairmont)、郊外西部のホワイトフィールド (Whitefield) などである。

### 【日本食】

ベンガルール市内には日本食レストランが増えており、日本人シェフがいる店舗もある。日本食材は EC サイト「MAIN DISH」で購入できる。

### 【金融】

邦銀では、三菱 UFJ 銀行ベンガルール支店とみずほ銀行ベンガルール支店が法人向けのサービスを行っている。給与振込、日常的に発生する決済や送金などについては、地場銀行に口座を作って行うことが一般的である。

## 2. 主要工業団地

### (1) トウムクウル地区：ヴァサンタ・ナラサプラ工業団地

ベンガルールから 80 km 余り北西にあるトウムクウル (Tumkur) 地区は、インド中央政府の「国家製造業政策」により製造業専用の工業地区 (National Investment & Manufacturing Zone : NIMZ) として指定された 12 か所の一つで、カルナタカ州の産業政策においても、優先的な開発が定められている。同産業政策のインセンティブも付与の対象となっている。

現在、同地区内のヴァサンタ・ナラサプラ (Vasanthanarasapura) 工業団地では入居企業の操業と並行して開発が進んでいる。工業団地の土地総面積は 8,484 エーカーであり、第 1～第 3 フェーズに分かれている。このうち、第 3 フェーズでは、520 エーカーを日本工業団地 (JIT)、約 500 エーカーを工作機械専用の工業団地 (Machine Tool Park : MTP) として開発中である。日系企業の

<sup>58</sup> 在インド日本国大使館：[https://www.in.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/00\\_000572.html](https://www.in.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000572.html)

ベンガルール日本人会：<https://www.bangalore-nihonjinkai.com/%E7%94%9F%E6%B4%BB%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89-1/%E7%97%85%E9%99%A2/>

進出状況に関しては、東芝三菱電機産業システム（TMEIC）が進出済みであるほか、2024年2月時点でブラザー工業を含む4社の日系企業がJITに入居しており82.47エーカーが割り当てられている。また、同工業団地では食品産業の集積地である「メガ・フード・パーク」が稼働しており、多様な企業の進出が期待されている。



## (2) 主要工業団地

図表 28-3 主要工業団地の概要（2021 年 3 月時点）

工業団地名	アクセス	開発主体	土地価格 (ルピー/㎡)	空き状況	進出済主要 日系企業
ビダディ (Bidadi)	ベンガルー ル中心部よ り 28 km マイソール 行 き 州 道 (SH-17) 沿 い	KIADB※ <sup>1</sup> 、 BVIPWA (民間) ※ <sup>2</sup>	(1) KIADB 工業団地が 販売済み。 (2) 7,165 ルピー/㎡ (BVIP の 予定価格)	KIADB が開発した工業団地 (第 1 フェーズと第 2 フェー ズでは空きなし。 この他、トヨタ及びボッシュ などの部品サプライヤー企 業に作られた協会「ビダディ ベンダー工業団地福祉協会 ( Bidadi Vendors Industrial Park Association ; BVIPWA)」は、 「ビダディベンダー工業団 地 ( Bidadi Vendor Industrial Park)」という新 しい民間工業団地プロジェ クトを計画し、その第 1 フェ ーズでは 95 エーカーの工業 用地を収用済み。第 2 フェー ズで更に 300 エーカーを収用 予定。	トヨタ自動車、豊 田通商、豊田鉄 工、豊田合成、三 井物産、尾張精 機、三菱電機、ア イシン高丘など。
ハロハハリ 第 4 フェーズ及び 第 5 フェーズ (Harohalli P-IV &P-V)	ベンガルー ル中心部よ り 45km カナクプラ 行 き 国 道 209 号線沿 い	KIADB	(1) 6,177 ルピー/㎡ (第 4 フェ ーズの予定 価格) (2) 7,165 ルピー (第 5 フェーズ の 予 定 価 格)	申請受付中。第 1 フェーズ～ 第 3 フェーズでは空きなし。 第 3 フェーズでは、100 エー カーを女性企業家専用の工 業団地として開発する計画。 第 4 フェーズでは約 350 エー カーの工業用地が収用済み。 第 5 フェーズでは約 1,000 エ ーカーの用地が収用中。 電力：220/11 KVA の新たな変 電所を設置する予定。	東海ゴム(ハロハ ハリ第 2 フェー ズ)、川崎工業
エレクトロニク ス・シティ (Electronics City)	ベンガルー ル中心部よ り 22 km	KIADB	販売済み	空きなし	ファナック、横河 電機、安川電機

工業団地名	アクセス	開発主体	土地価格 (ルピー/㎡)	空き状況	進出済主要 日系企業
ボマサンドラ・ ジガニ (Bommasandra- Jigani)	ベンガルー ル中心部よ り 26km	KIADB	販売済み	空きなし	豊田自動織機、矢 崎、Semitec、北 川など。
ホワイトフィール ド (Whitefield)	ベンガルー ル中心部よ り 18km	KIADB	販売済み	空きなし	牧野、NTT など。
エアロスペースパ ーク・エレクトロ ニクス ハードウ ェア パーク (Aerospace Park/SEZ) & (Electronic Hardware Park)	ベンガルー ル中心部よ り 35 km ハ イデラバー ド行き国道 (NH-7) 沿い	KIADB, CDC (民間) <sup>※3</sup>	(1) 6,918 ルピー/㎡ (KIADB エ 業団地の予 定価格) (2) 13,650 ルピー/㎡ (台湾工業 団地の予定 価格)	申請受付中。土地面積は約 500 エーカー。うち、60 エー カーの空き地。 同工業団地の近辺にある、電 子機器専用の工業団地 「Electronic Hardware Park」では台湾系民間デベロ ッパーである CDC 社が台湾工 業団地 (Taiwan Industrial Cluster) を開発中。土地面 積は約 160 エーカー。第 1 フ ェーズでは 70 エーカーが販 売中。	アマダ
ドッダバラプル オバデナハリ (Obadenahalli)	ベンガルー ル中心部よ り 36km	KIADB	4,941 ルピ ー/㎡ (予 定)	申請受付中。196 エーカーの 用地が収用済み。うち、約 75 エーカーの空き地。	武蔵精密、ケーヒ ン、サカタのタ ネ、タキイ種苗、 内外キャスティ ング、ホンダな ど。
マルール第 4 フェ ーズ (Malur P- IV)	ベンガルー ル中心部よ り 45 km 州 道 99 号線沿 い	KIADB	4,002 ルピ ー/㎡ (予 定)	申請受付中。総面積は約 450 エーカー。空き地は約 15 エ ーカー。基本インフラは整備 済み。 給水量：KIADB からの水供給 はなし。各企業が自分の井戸 水をアレンジする必要あり。	日本ピストンリ ング、ツジカワ、 油研工業など。

工業団地名	アクセス	開発 主体	土地価格 (ルピー/㎡)	空き状況	進出済主要 日系企業
ナラサプル (Narsapura) 第 2 フェーズ/ジャッ カサンドラ (Jakkasandra)	ベンガルー ル中心部よ り 55 km。チ ェンナイ行 き国道 4 号 線沿い	KIADB	2,174 ルピー/㎡ (水供給インフラ整備費用を除いた予定価格)	第 1 フェーズが販売済み。主に 92 のプロジェクトが承認されている。第 2 フェーズでは 628 エーカーが割り当て承認済みで、現時点では、空き地約 20 エーカー。	本田技研工業、バンドー化学、アイシン、エクセディなど。
ヴェームガル (Vemgal)	ベンガルー ル中心部よ り約 50 km。 国道 4 号線 沿い	KIADB	4,225 ルピー/㎡ (予定)	申請受付中。第 1 フェーズの総面積は約 620 エーカーで、空き地は約 5 エーカー。第 2 フェーズで更に約 500 エーカーの用地を収用予定。 給水量：現在、KIADB からの水供給はなし。各企業が自分の井戸水をアレンジする必要あり。なお、40MLD の処理済水をナラサプル、ヴェームガル、マール工業団地に供給するプロジェクトが計画されている。 電力：220/11 KVA の新たな変電所を設置する予定。	三菱エレベーター
ガウリビダヌール 第 2 フェーズ (Gowribidanur P-2)	ベンガルー ル中心部よ り約 70 km。 州道 7 号線 沿い	KIADB	1,939 ルピー/㎡ (予定)	申請受付中。第 2 フェーズの総面積は約 627 エーカー。空き地は約 30 エーカー 給水量：KIADB からの水供給はなし。各企業が自分の井戸水をアレンジする必要あり。地下水が豊富。 電力供給：各企業に 11 KVA を配電する。	なし
ピニア・ラジャジ ナガル (Peenya- Rajajinagar)	ベンガルー ル中心部よ り約 15 km。 ムンバイ行 き国道 4 号 線沿い	KIADB	販売済み	空きなし	日立工機、DOWA サーモテック、ミラプロ、サンライズ工業、DMG 森精機など。

工業団地名	アクセス	開発主体	土地価格 (ルピー/㎡)	空き状況	進出済主要 日系企業
ドバスペット第 4 フェーズ (Dabaspeta P-IV)	ベンガルー ル中心部よ り約 50 km。 州道 4 号線 沿い	KIADB	3,706 ルピー/㎡ (予定)	申請受付中。総面積は約 890 エーカー。空き地は約 30 エーカー。 給水量: KIADB からの水供給はなし。各企業が自分の井戸水をアレンジする必要がある。 電力供給: 各企業に 11 KVA を配電する。	東海理化、東洋電機、日立・ターミナル・ソリューションズ
ヴァサンタ・ナラ サプ 第 2 フェーズ/第 3 フェーズ (Vasantha Narasapura P-II/P-III)	ベンガルー ル中心部よ り約 86km 国道 4 号線 沿い トゥムクル 市より 約 15 km	KIADB	(1) 1,730 ルピー/㎡ (P-II/P-III の予定価格) (2) 2,456 ルピー/㎡ (工作機械専用工業団地の予定価格) (3) 2,693 ルピー/㎡ (日本工業団地の予定価格)	申請受付中。第 2 フェーズは約 14 エーカー、第 3 フェーズでは約 1,100 エーカーの空き地。このうち、第 3 フェーズでは、529 エーカーを日本工業団地 (JIT)、約 500 エーカーを工作機械専用の工業団地 (Machine Tool Park、MTP) として開発中。 JIT では約 300 エーカーの空き地、MTP では約 250 エーカーの空き地。 第 4 フェーズで更に約 700 エーカーを収用予定。同工業団地が国家製造業政策 (National Manufacturing Policy、NMP) のもと、国 12 か所で開発する国家投資・工業地区 (National Investment & Manufacturing Zone: NIMZ) の一つとなる。 給水量: 現在、KIADB より 5MLD の処理済水施設を設置済み。 電力: JIT と MPT 用の 220/11KVA の新たな変電所を設置。	東芝三菱電機、ショーワなど。

工業団地名	アクセス	開発 主体	土地価格 (ルピー/㎡)	空き状況	進出済主要 日系企業
ホスール (Hosur)	ベンガルール中心部より約 40KM。 NH7 号線沿い。ベンガルール国際空港より 75 km。	SIPCOT※4	販売済み	P-I と P-II とともに販売済み。 総面積は約 2,000 エーカー。 P-III では 800 エーカーを収用予定。	朝日電装、ジャパンメタルビルディングシステムズ (JMBS) , India Nippon Electricals、関西ペイントなど。
GMR クリシュナギリ・インベストメント・リジョン (GMR Krishnagiri SEZ)	ベンガルール中心部より約 65 km。 NH7 号線沿い。ホスールより 20 km。	GMR (民間) ※5	3,706 ルピー /㎡ (P-2 の 予 定 価 格)	申込受付中。第 1 フェーズ (564 エーカー) が販売済み。 第 2 フェーズで 1,536 エーカーの工業用地が開発中。	トヨタ紡織

(注) ※1 KIADB : カルナタカ州工業団地開発局 (Karnataka Industrial Area Development Board)。オンラインで土地申請は可能 (URL: <http://164.100.133.168/kiadbportal/>)

※2 BVIPWA : ビダディベンダー工業団地福祉協会 (Bidadi Vendor Industrial Park Welfare Association)

※3 CDC : 台湾系の民間デベロッパー (Century Development Corporation.)  
(URL: <http://www.centurydev.com.tw/>)

※4 SIPCOT : タミル・ナドゥ州産業振興公社 (State Industries Promotion Corporation of Tamilnadu Ltd.) (URL: <https://sipcot.tn.gov.in/>)

※5 GMR : 地場大手デベロッパー企業 (URL: <https://gksl.gmrgroup.in/>)

(出所) JETRO「インドの工業団地情報」より作成